

今回の東京研修では一日目にディレクトフォースで近藤玄大さんによる公演を聞いたあとにグループセッションで様々な活躍をしている方々の話を聞いたり、自分の将来についての疑問などを質問したりしました。ディレクトフォースのあとには企業訪問でわたしたちのグループは SS 製薬研究所の成田研究所を訪問しました。ここでも SS 製薬についてまず紹介していただき、その後準備していた質問やその場で思いついた質問などをしました。

まずディレクトフォースの公演では義手をつくっている近藤玄大さんによるものづくりからの視点で生き方について話していただきました。近藤さんによるとものづくりというのは世界共通言語のようなものであり、使う人によって自分を主人公とする劇中劇のようなものだといっていました。近藤さんは小さいときにアメリカにいた帰国子女です。アメリカにいたときと日本にいたときでは文化が全く違うためその文化の違いに違和感をいただいていたそうです。そして環境に障害があるなどかんじたそうです。その後大学にいきそのあと大企業であるソニーにいて友だちと 3D プリンターで義手をつくってコンテストに出したりして自分だけでだすことに挑戦しようとおもい、会社の仲間と 3 人で自分たちの会社をつくったそうです。会社で働きながら、自分で手足を動かし、成功したり失敗したりすることが大切であるとおっしゃっていました。また製品を考える上でいろんな人、いろんな考え、いろんな価値観があるということを考えながらつくることも大切であるとおっしゃっていました。様々なことを経験をもとにはなしていただきましたが、そのなかで最も大事だと近藤さんがおもっていたことが将来はたのしいことをして人を喜ばせようとする、そしてその人との繋がりを大切にする、ということでした。わたしも自分の将来はまだ曖昧になっている部分が多いので、とても将来について考える上でためになる話でした。また質問のコーナーではこれまでとは違う義手を開発しているので、これまでとは違うやり方をするとき抵抗はなかったのかという質問がでました。回答では抵抗はあったものの周りの人の支えもあり徐々にのってきて、自信がついたのでここまでやってこれたそうです。まずできることからやってみるといのが大事であるとわかりました。またわたしも少し興味があった国際交流のことについては国際交流によって生きてくるものという質問がでて、海外にも日本と同じよう高校生の時に出会った同志ができたことを強く主張していました。また環境がすこしかわるだけで得られるものが必ずあるとおっしゃっていました。

そして近藤さんのお話がおわったあとには笹川平和財団による対談がありました。1 人目の講師の方は藤井麻衣様でした。藤井様は国際法に興味をもち国連に将来行きたいなと思い、大学を決めたそうです。また国連で働いている職員さんの大体が院に入ってマスターとっていたためマスターをとることは必須だと感じ大学院にはいったそうです。そしてすぐには国連にはいけないので、まず海洋裁判所の外交官となり、パリ協定の交渉にも立ち

会いました。それぐらいバリバリはたらいていましたが、結婚して子供ができ省庁は働く時間が長いということもあって、ワークライフバランスを考えるとともに自分の専門性を高めたいとも思い、今の職業である海洋政策研究所というところではたらいています。また私が一番気になっていたことでもありましたが、英語は必須であるのかという疑問については英語は本当に必須であるということでした。文系にいったとしても理系にいったとしてもつかうので、本当に今のうちに身につけておいたほうがいいと思いました。また、英語で話すときどうやって喋ったらいいのかという疑問については常に話すときに結論をかんがえながらしゃべることが大切だとおっしゃっていました。一文一文をととても短くして簡潔にあらわすなどのコミュニケーションスキルをあげることによってこのことが実現するとおっしゃっていたので、少しずつ話すことや聞くことにもなれないとなと思いました。

2人目は相馬円香様との対談でした。相馬様は言葉というのは大切だということをおっしゃっていました。ものを売るといふのにも使うし、どんな状態で働いていてもこのことが大切になるとおっしゃっていました。そして英語は大切ですか？という質問には英語を使えるようになる前にまず日本語を使えるようにならなきゃいけない。そして英語を美しく、考えをまっすぐに伝えられるようにするというをおっしゃっていて、私は日本語も美しく使えているわけでもなく、語彙も乏しいのに、英語を話せるようになりたいと思っていた自分がとても恥ずかしくなり、また語学という分野においてほんとにまだまだだなあと思いました。だからまず美しい日本語を使って考えを相手にきっちり伝えられるようにしなければなどと思いました。そして英語を早く喋れるようになりたいと思って焦るのではなく、日々の授業などから学んでいけることは学んで少しずつ頑張りたいなどおもいました。また文化によってジェスチャーなどを使ったりすることも大切だと教えてくださったので、日本語を使うときから恥ずかしがらずにジェスチャーを交えたりして練習したいなどおもいました。考えを伝えるときはメリットをよりデメリットより強くだすのがキーだと教えてくださいました。自分の意見を伝えるときにメリットばかりではなくデメリットもきちんと伝えないと説得力のある考えとはならないと思います。しかしデメリットを言うてしまうとどうしてもメリットよりもデメリットが強くでてしまう気がしていましたが今回メリットをより強くだすことが大事だと教わったのでやっぱりこれからの生活や国語の時間などでメリットをより強く出せるようにするためにはどうしたらいいのかというのを考えて過ごして入試などで自分の意見を伝えなければいけない時がでてきたらそこで生かせるようにしたいなどおもいました。そして人間として大事なことも教えていただきました。まずはチャンスがあったら躊躇せずののっかる。人のせいにはしないようにする。自分の好きなものはもちろんやりたくないなど思うことでもやる。そして、独りよがりにはならないで、人のこともきちんと考えるようにすることが大切だとおっしゃっていました。生きる上でも将来の仕事などをしていく上でもその前のその将来の夢を叶えていく上でも大切になっていくことを教えていただけました。

最後の 3 人目の講師の方は川崎有治様でした。川崎様は国ごとに文化が異なることを受け入れることが大事でありそこが外国と日本との違いであるとおっしゃっていました。そして、自分はこういうものです。何者なんです。ということをはっきりと言いあらわせるような自信をもつことも必要となってくるとおっしゃっていました。そのためには主張することを大切にする。メモをちゃんと取ることが大事だと教えていただきました。また、教養というのは知識があるということはもちろん、説明する力というのがあることとおっしゃっていました。賢い人と勉強のできる人は違うというのを聞いたことがあったのでそれとおなじようなことなのかなとおもいました。賢い人というのは勉強さえできればいいのではないと分かりました。また私が最も気になっている英語のことについて聞いてみると、英語は必要最低限のものであるとおっしゃっていました。また英語が喋れるのは普通のことであるからもう 1 ヶ国語中国語、韓国語、スペイン語、ドイツ語、フランス語のなかから話せた方がいいとおっしゃっていました。しかし、完璧でなくても私たちが外国人のジェスチャーなどで言いたいことがわかるように外国人にとっては海外に行けば私たちが外国人の立場なので理解してくれるもんだということもおっしゃっていました。最後に恐れずに、粘り強く生きなさいと主張してくれました。自分の言いたいことをどんな時も論理的に言えるようにしなさいとおっしゃっていました。このディレクトフォー スを通して私は海外で活躍した方も多くて海外での生活の仕方、生き方を聞くことができたのが一番の収穫だったなと思います。また一流の方々の方々の生き方やモットーが聞くことができ、どのような心持ちで生活していけば良いか参考になりました。今回 3 人の講師の方々に教えていただいたことをこれからの自分の人生や将来の自分に役立てていきたいです。

ディレクトフォー スがおわってからそのまま SS 製薬研究所に行きました。電車などの問題もあり、少し遅れることになってしまいましたが礼儀よく遅れることについて電話で伝え謝罪することもできたのでよかったです。実際行ってみると工場と研究所がくっついていてとても大きな敷地内で驚きました。担当者の方と会ってすぐに担当者の方から SS 製薬研究所とはということで説明をしてくれました。そしてそのあとすぐに質問タイムとなりました。私たちは、メモできないくらい沢山の質問をしました。その中でも私が最も印象に残っていると聞いて本当に良かったと思った質問が免許を取るべきかどうかということでした。私は今まで研究員のかたも必ず薬剤師の免許は持っていないとダメだと思っていましたが、そんなことはなく獣医師の免許を持っている人もいたり、免許を持っていなかったとしてもなることができるとおしえていただきました。しかしやはり何かしら免許を持っておいた方が就職の際に有利であったり、特に女性は結婚して子供が生まれてとってから研究員としては忙しくなって働けないとなってしまう時に免許を持っていれば研究員ではなく一般の製薬を取り扱う店で働くこともできるという利点も多く挙げていました。

以前行った大学のオープンキャンパスで薬学部に行って説明を聞くと薬学部に入ったか

らといって薬剤師免許を取れる科にいけるのは上位 2 割と説明を受けたので、免許を取るのには難しいけどぜひ挑戦したいなと思いました。またお金のことについても多く聞くことができました。薬を作る上で研究するのも材料費だったり機材費用など多くのお金がかかっているとわかりました。出来るだけ粉をこぼさないようにしたり失敗しないように実験を繰り返したりしているそうです。また機材は一台何百万から何千万もするものが多いようで震災の時とかは大変だったとおっしゃっていました。また給料は最初は研究所の方々は薬局とかよりも安いけどそのあとの伸び率が大きく最終的には研究所の方が高くなるということも言っていました。困難にぶつかった時どう対処していますか、やめたくなくなることはないんですか、どうしてこの仕事につこうと思ったのですか、この仕事をやって嫌なことも忘れるくらい嬉しかったことはありますか？などまだまだたくさんのご質問をいただきました。どの質問も人生の先輩としてのすごくためになるようなことを答えてくださり、これから生活するときやさまざまなことを経験していく中で生かしていけることは生かしていきたいなとおもいました。

2 日目は東大を見学しました。一二年生の時に通う駒沢キャンパスをはじめに見学しました。やはり一番すごいなと思ったのは図書館の大きさです。蔵書数も 2 番目に多いということでどんな感じなんだろうと思って見てみるとまるで映画に出てきそうなくらいの大きさに自習スペースも充実していて東大はやっぱりちがうなあって思わせてくれるような図書館でした。見学の後には進路のことなどについて話し合う会がありました。先輩方の話を聞いたり自分はどんなことを本当にやりたいのかというのを書いていたりして明確に目標を見つける、探すことのできる機会となりました。私のしたいことに今目指している大学はあっているのかほんとにそれがしたいのかというのを考え直したりすることができ、一歩でも夢に近づけたと思います。また夢ばかり追いつけるのではなく今の勉強のことも考えることができ、まだまだわたしには学力が足りないので勉強も本気で頑張んなきゃならないと改めて思いました。

お昼を各自で食べた後には 3 年生以上のいる本郷キャンパスに行きました。ここでは文系と理系とで別れて見学しました。研究室というのを初めて見してもらったり、実際にかっている魚たちを見してもらったり、なかなか濃い東大見学をすることができたのではないかなと思いました。それに教授の方に普通では聞くことのできないような話を聞かせていただいたりしたのでとても濃い時間が過ごせたと思います。また最後に現東大生への相談会がありました。勉強の問題だったりやる気を保つためだったり部活動のことだったりたくさんのご質問をいただきました。どうしてもやる気が出ないときはその教科をやめるというのが一番いいと言われてたり、部活で疲れちゃったときは寝るのもいいということだったり、東大生でも私と同じような悩みを持っている人が沢山いて少し安心しました。でも同じ悩みを持っていたとしてもその解決の仕方がきっと違うんだなと感じたのでわたしも東大生のようになれるように頑張りたいと思いました。

今回の東京研修では今の生き方、将来の生き方など自分の人生につながることをたくさ

ん学びました。また自分の課題や見直していかなければならないところが見つけたのでこの機会に改善できるようにしたいと思います。まず今回出会った立派な方々に負けなように今に一生懸命になって頑張りたいと思いました。